

懸案解決と 医薬品卸業界の発展をめざす

社団法人 日本医薬品卸業連合会 会長

別所 芳樹

本日は大変お忙しい中、通常総会にご臨席を賜わりまして、誠にありがとうございます。また、日頃は卸連合会の活動に対しまして、ご理解とご支援を賜わり、あわせて御礼を申し上げます。

さて、本年は特別な通常総会であります。本日の協議事項にもありますが、公益法人制度の変更に伴いまして、来年4月に当連合会は新制度における一般社団法人に移行する予定であり、現形態での通常総会は最後となります。したがって、平成24年度は、社団法人日本医薬品卸業連合会にとり最終年度に当たりますので、医薬品卸業界が直面している困難な課題の解決を図り、有終の美を飾りたいと考えています。

去る3月に私どもが当面解決を図る必要があるいくつかの課題について会長声明を公表し、記者会見を行いました。公的医療保険制度の適正運営の観点から要請される流通改革の達成、医薬品のトレーサビリティの確保を図るためのバーコード表示の推進及び川上取引の透明化についてです。

あわせて、これらの課題の解決のため、今後、流改懇に設置されるワーキングチームに積極的に参加していきたいと表明しました。

まず、流通改革の取り組みについてですが、今年には流通改革の第3ラウンドということになります。平成19年に流改懇が緊急提言を取りまとめたから、3回の薬価改定が行われました。これまで緊急提言の実現に精一杯努力をしてきましたが、期待した成果がなかなか上がっていないのが現状です。今回が最大で最終のチャンスであり、第4

ラウンドはないとの心構えで課題の解決に当たりたいと思っています。

幸いにも、行政のご指導、ご支援もあり、当連合会との協議を踏まえた日本保険薬局協会の流通改善についての決議が行われ、あるいは先の会長声明や流改懇等の議論を踏まえ、各卸の皆さんには、真剣に取り組んでいただいております。

また、総価取引や未妥結・仮納入の相手方である公的病院の団体本部などにもご協力をいただけるよう面談をしました。いずれの団体においても、担当責任者の理解が深まっており、2年前の訪問とはずいぶん違う感触を得ております。あとは我々の現場における努力いかにかかっていると思っています。会員構成員各社のご努力とMSの皆さんの奮闘を期待する次第です。

それから、変動情報を付したバーコード表示普及の促進については、医薬品のトレーサビリティを確保し医療の安全を図るためには必須の事柄であると思います。諸外国では商品名だけでなく、ロットナンバー、有効期限を付したバーコード表示が一般化してきており、もはやグローバルスタンダードとなりつつあります。流改懇において、学識経験者や医療関係委員の方々からも、前向きに推進すべきとの言葉を頂戴しております。また、メーカーと卸の合同プロジェクトチームの最終報告書が出来上がりました。実施可能なメーカーから、実施可能な商品から表示を行う旨の取りまとめとなっています。メーカー、卸とも設備投資が必要であり、大変厳しい面もありますが、より良

第35回 通常総会

社団法人 日本医薬品卸業連合会



い医療、患者の安全という観点から積極的に推進していきたくと考えています。

次に、危機管理流通の充実について申し上げます。東日本大震災において、大変に困難な中で我々医薬品卸は、医薬品の安定供給という社会的使命を果たしました。日本の医療の中に、医薬品卸はなくてはならない存在だというお褒めの言葉を各方面から頂戴しました。新型インフルエンザ対応についても、流通スキームを一層充実するために、厚労省等と話し合いを行っています。今後とも、有事のときにきっちりと役割が果たせるように、医薬品流通の危機管理体制をさらに充実していきたくと思っています。

卸の利益の状況は、2010年度の決算で卸の営業利益率は0.13%という過去最低の壊滅的なものでありました。5月に発表されました上場各社の2011年度の決算発表を見ておきますと、多少持ち直しているという感もありますが、まだまだ低い利益水準であります。クレコンさんの資料によりますと、2010年度の営業利益率は、総合商社大手6社の平均は2.05%、食品卸は0.96%、アメリカの医薬品卸は1.7%ということでありました。他の業種の卸さんと比べても極めて低い水準にあります。

十分な利益が確保できなければ、必要な設備投資もなかなか行えないことになり、卸業としての

社会的責任が果たせないということにも繋がってきます。危機管理対応のための更なる必要な設備投資のためには、傘下会員各社の収益が向上する必要があると考えています。

以上、医療用医薬品について申し上げましたが、大衆薬につきましては、大衆薬卸協議会で各種のテーマについて精力的にご検討いただき、独立的な組織運営を進めていただいています。大衆薬のネット販売についての高裁判決が大きな論議を呼んでいるなど、取り組むべき課題は山積していると思います。引き続き、大衆薬卸協議会の自主的な運営に必要なバックアップをしていきたくと考えておりますので、大衆薬卸各社の皆様の活発なご活動を期待する次第であります。

私も会長として2期目の2年目に入るわけであり。この1年を皆さん方の強力なご指導とご支援をいただきながら、懸案解決と医薬品卸業界の発展をめざしまして、精一杯の努力を傾注していきたいと考えております。どうぞ引き続きよろしくお願い申し上げます。

*本稿は、平成24年5月24日に開催された、当連合会の第35回通常総会での別所会長の挨拶に基づき作成したものです。